

健康メモ

新型コロナウイルス感染症 予防接種の効果と副反応

和寒町では新型コロナウイルス感染症の予防接種を5月から開始しており、64歳以下の方は7月中旬より開始します。予防接種の効果と副反応のリスクを十分理解され、体調等を考慮し、接種するかご自身で（未成年の方は保護者も含め）判断した上で受けましょう。



【新型コロナワクチンの特徴】

- ・ウイルスのもととなる情報の一部を注射します。その情報をもとに体の中で抗体が作られ新型コロナウイルスに対する免疫を獲得します。そのため、このワクチン自体からウイルスに感染することはありません。
- ・接種の対象者は、現在（R3年6月）のところ12歳以上となっています。



【ワクチンの有効性】

現在和寒町で接種しているファイザー製のワクチンは、3週間の間隔を置いて2回接種します。ワクチン2回接種後（7日目以降）のワクチンの有効性は約95%※と報告されています。（※厚生労働省HPより）



【接種による副反応】

副反応は、1回目より2回目の方が出やすいこと、高齢者よりも若年層（特に20～30代）に出やすいことがわかっています。（表1）

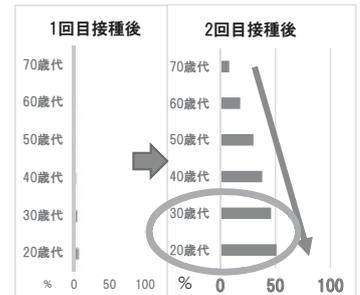


表1. 発熱（37.5°以上）の副反応発生状況
（※厚生労働省HPより抜粋）

🔍 起こるかもしれない体の症状：

症 状	発生頻度
<input type="checkbox"/> 接種部位の痛み <input type="checkbox"/> 疲労 <input type="checkbox"/> 頭痛	2人に1人以上
<input type="checkbox"/> 筋肉痛 <input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 接種部位の腫れ	2～5人に1人
<input type="checkbox"/> 吐き気、嘔吐	10人に1人

🔍 稀に起こるかもしれない重い症状： ショック・アナフィラキシー

ショック・アナフィラキシーが疑われる症状（特に接種直後から15分以内に起こりやすい）			
	<input type="checkbox"/> 皮膚症状（かゆみ、じんましんなど）	<input type="checkbox"/> 消化器症状（腹痛、吐き気）	<input type="checkbox"/> 視覚の異常
	<input type="checkbox"/> 呼吸症状（声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさなど）		
	<input type="checkbox"/> ショック症状（顔が蒼白い、意識混濁）		
※接種後、15分以上は会場で様子を見ていただきます。 （他の医薬品や食物にアレルギーがある方は30分）			

【副反応への対応】

発熱や痛みは接種後1～2日以内に起こることが多く、ほとんどは接種後2日以内で治まることが多いと報告されています。飲み慣れている解熱鎮痛薬※を服用して様子を見ましょう。症状が強まったり、いつもと違う場合は町立診療所（32-2103）へ電話をしてから受診しましょう。



※市販の解熱鎮痛薬には様々な種類があります。禁忌やアレルギーが出る場合もありますので、使用上の注意をよく読んで上で選択しご使用ください。

【予防接種は強制ではありません】

接種しないことで批判することや接種の強制がないようご配慮ください。接種に関する相談や問い合わせは保健福祉センターへお願いします。

【保健師 福川 瑞恵】